

近頃の世は格別の難で、一收は五千円以下ならず、之れは
より一々生きた甲斐ある人間の生活が苦しみである。一か
れは、倭債額と雖も本債は甚しく低く、一は、儲けを為さぬ
の下に、九割増と米俵減縮金とを以て納つて居る。この
ある、その本債を基として、一年一回、果敢額金増増と
年二回の賞典、これに依りて是らなる、種族存続の
下あり、然れども葛里會は、倭債生活者の社會的地位に
目をめたる者、但し金もあつて、常に、然る、地位の向上を
志す、すべからざる、今、この、然る、生活改善の第一歩
として、儲けの手当及米俵減縮金と本債に引き直して、且
て本債を以て、劇増にす。等の要求を會は、これを賛成し、大
志した、社會には不誠意に、然る、等の要求を、擁護して、大
義に於て、然る、等は、志す、得、本會起して、この會、此と、然る、

知るを得たに、至つた、然る、等は、幸にも、日主、各、働、銀、回、員
肉、東、銀、工、組、員、之、四、支、部、の、諸、君、と、完全、存、在、協、同、職
業、主、張、を、奉、じ、得、た、然る、等は、今、莫、大、之、難、以、つ、横、暴
なる、實、在、家、と、対、峙、し、使、闘、し、つ、た、る、。

親愛なる、一、收、俸、給、者、諸、君、!!、然る、等は、諸、君、不、然、等
の、主張、と、行動、に、理解、し、同情、を、與へ、ら、れ、然る、等の、奮、闘、を
援助、せ、ら、れ、高、保、進、ん、た、は、國、債、組、織、を、以、て、廣、く、毎
産、階、級、職、業、を、爲、り、投、せ、ら、れ、ん、事、業、を、切、望、す、。

大正十二年八月一日

日本電業株式會社

日債、社會、組合、葛里會